

[JASO 制定：8 件]

01：規格名称：JASO C 469 乗用車ブレーキ摩擦材メタルピックアップ (MPU) 試験方法

制定の目的：

市場のグローバル化、使用環境の多様化に伴い、メタルピックアップ (MPU) によるブレーキディスク傷の不具合が顕在化しているが、評価は各社様々な試験で実施しており、開発効率が悪い。この状況を統一された試験方法を制定することによって改善するとともに、品質向上に貢献する。

適用範囲：

乗用車の常用ブレーキに使用するディスクブレーキのメタルピックアップによるディスク摺動面のきず付き評価を行うためのダイナモメータ試験方法について規定する。

規定項目：

1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 試験条件 5 試験方法 6 計測及び記録 解説

期待効果：

開発効率の向上と品質の向上

02：規格名称：JASO C 470 乗用車ブレーキダスト試験方法

制定の目的：

PM、PN の発生源として自動車排出ガス、石油燃焼施設、廃棄物焼却に加え、ブレーキやタイヤ摩耗粉じんが挙げられており、自動車排出ガスが低減されてきた中、寄与率の低かったブレーキやタイヤの摩耗粉じんに注目が集まっている。また、昨今の学会、国際会議においてもブレーキの摩耗粉じんの関心が高まっている。今後動き出すと思われる国際規格化に向けて、日本から見解を示していくために具体的な規格が必要であると考え、本規格を制定した。

適用範囲：

乗用車の常用ブレーキから排出される摩耗粉のブレーキダイナモメータによる摩耗粉じん計測試験方法について規定する。

規定項目：

1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 試験条件 5 試験方法 6 記録 付表 1 記録紙(ディスクロータ) 付表 2 記録紙(ドラムブレーキ) 解説

期待効果：

本 JASO の制定により、ブレーキダストの評価方法、計測方法を統一化し、今後制定される可能性がある環境基準を判断する方法として使用する事が出来る。

03：規格名称：JASO D 017 自動車部品—高電圧リレーの試験方法

制定の目的：

高電圧リレー性能評価法として 2013 年にまとめられた JASO TP 13001 をベースに、高電圧部品に適用される耐環境試験法を規定した ISO 規格 (ISO 19453 series) が発行されたことを受け、同 ISO 規格との整合及びリレー性能事項の規定を目的として制定した。

なお、当初は前記 JASO TP 13001 の改正として計画されたが、電動車用部品に関する規格制定動向の要請に応えるため、JASO 制定とした。

適用範囲：

電動車両の高電圧電源システムにおいて、高電圧バッテリーとインバータ間等に設定されるリレーへ適用する。接点間電圧が電圧クラス B の機械式リレーを対象とする。

規定項目：

1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 共通条件 5 試験方法 附属書(参考) 解説

期待効果：

高電圧部品に対して最新の国際規格に整合したものとすることで、過不足ない製品設計や効率的な製品評価につながる事が期待される。また、リレー固有の性能項目についても関連規格に合わせて更新することで、製品サプライヤーやカスタマーに対し、技術動向に沿った情報提供を行うことが可能となる。さらに、JASO として制定することで、国際規格等の制定活動における検討参照規格としての運用が期待される。

04：規格名称：JASO D 625-1 自動車部品—自動車用電線—第 1 部：関連用語

制定の目的：

自動車用電線の製品規格である JASO D 611:2014 及び試験規格である JASO D 618:2013 を統合し、第 1 部から第 3 部で構成し直すことで、それぞれの JASO 規格の改正時期による相違点の解消と規格の利便性の向上を図る。また、種類が増加している電線ラインナップを見直し、スリム化すると共に最新の内容を反映する。更に全面改正された ISO 19642:2019 で追加された内容を反映する事で、国際規格との整合を図る。

適用範囲：

電線及びその試験に関連する用語について規定する。

規定項目：

序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 分類 4 用語及び定義 解説

期待効果：

業界ニーズを反映した電線ラインナップの最新化、また必要な試験項目、試験方法、試験条件などの最適化、最新化が期待できる。また製品規格と試験規格に於いて、改正年度の差による相違点を解消する事が出来る。

05：規格名称：JASO D 625-2 自動車部品—自動車用電線—第 2 部：試験方法

制定の目的：

自動車用電線の製品規格である JASO D 611:2014 及び試験規格である JASO D 618:2013 を統合し、第 1 部から第 3 部で構成し直すことで、それぞれの JASO 規格の改正時期による相違点の解消と規格の利便性の向上を図る。また、種類が増加している電線ラインナップを見直し、スリム化すると共に最新の内容を反映する。更に全面改正された ISO 19642:2019 で追加された内容を反映する事で、国際規格との整合を図る。

適用範囲：

自動車に用いる非遮へいの単心低圧電線の試験方法について規定する。

規定項目：

序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 試験環境条件 4 試験方法 附属書 A 解説

2019年度 JASO・JASO テクニカルペーパー (TP)・JIS の原案概要

期待効果：

業界ニーズを反映した電線ラインナップの最新化、また必要な試験項目、試験方法、試験条件などの最適化、最新化が期待できる。また製品規格と試験規格に於いて、改正年度の差による相違点を解消する事が出来る。

06：規格名称：JASO D 625-3 自動車部品－自動車用電線－第3部：低圧銅電線

制定の目的：

自動車用電線の製品規格である JASO D 611:2014 及び試験規格である JASO D 618:2013 を統合し、第1部から第3部で構成し直すことで、それぞれの JASO 規格の改正時期による相違点の解消と規格の利便性の向上を図る。また、種類が増加している電線ラインナップを見直し、スリム化すると共に最新の内容を反映する。更に全面改正された ISO 19642:2019 で追加された内容を反映する事で、国際規格との整合を図る。

適用範囲：

自動車に用いる非遮へいの単心低圧電線で、JIS C 3406 に規定される AV(自動車用低圧電線)を除く低圧銅電線の構造と特性について規定する。

規定項目：

序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 種類、名称、記号及び絶縁体材質 4 性能 5 構造及び材料 6 試験 7 包装 8 製品の呼び方 9 表示 付属書 A 付属書 B 解説

期待効果：

業界ニーズを反映した電線ラインナップの最新化、また必要な試験項目、試験方法、試験条件などの最適化、最新化が期待できる。また製品規格と試験規格に於いて、改正年度の差による相違点を解消する事が出来る。

07：規格名称：JASO E 017 自動車－四輪駆動車用シャシダイナモメータを用いた転がり抵抗測定方法

制定の目的：

燃費試験等では、再現性の高い安定した走行抵抗測定法が期待されており、そのためには室内台上試験で転がり抵抗を測定する具体的方法や必要な補正方法等の規定が必要なため、本規格を制定した。

適用範囲：

この規格は、四輪駆動車用シャシダイナモメータを用いて車両質量 3 500 kg 以下の自動車用のモード燃料消費率試験及び電力量消費率試験(以下、燃費試験)を行う場合において、目標走行抵抗算出用の転がり抵抗を算出するための要件を規定する。

規定項目：

1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 要件 5 転がり抵抗の測定 6 温度係数の算出 付属書 A(規定) 付属書 B(規定) 付属書 C(規定) 付属書 D(参考) 解説

期待効果：

実路試験では、環境条件に左右されて安定した走行抵抗測定が困難なため、室内試験による走行抵抗測定への期待が高い。ちなみに WLTP では風洞設備とフラットベルトシャシダイナモメータによる走行抵抗測定法が認められた。本 JASO では、四輪駆動車用シャシダイナモメータによる転がり抵抗測定方法及び補正方法を規定することで、合理性・実用性を備えた再現性の高いモード燃費試験が可能となる。

08：規格名称：JASO T 305 二輪自動車-ヒューズボックス及びヒューズ・リレーボックス

制定の目的：

現状、ヒューズボックス及びヒューズ・リレーボックス(以下、ボックス)の要求性能と試験方法に関してまとめられた規格がなく、完成車メーカー毎に要求性能と試験方法が異なり、互換性の無い様々な種類のボックスが生産、使用されている。本規格では、要求性能と試験方法の標準化を図り、開発効率の向上と品質の安定化、更には種類削減を狙う。

適用範囲：

この規格は、二輪自動車に搭載されるヒューズボックス及びヒューズ・リレーボックスの外形寸法・取り付け形状とその一般要求性能及び試験方法について規定する。

規定項目：

1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 形状及び寸法 5 要求性能項目と試験項目との関係 6 要求性能 7 試験方法 解説

期待効果：

本規格を制定することで、要求性能と試験方法の標準化を図り、開発効率の向上と品質の安定化、更には種類削減が期待できる。

[JASO 改正：3件]

09：規格名称：JASO D 014-1 自動車部品－電気・電子機器の環境条件及び機能確認試験－第1部：一般

改正の目的：

この規格は 2006 年に制定された後、2014 年に改正され、維持されてきた。この間に基礎としている ISO 規格が改正されたため、今回改正を行った。

適用範囲：

電気・電子のシステム/部品が自動車内部又は外部へ取り付けられたときに影響を与える潜在的な環境ストレスに関する定義及び一般的な仕様を記述し、対応する試験手順及び要求事項について規定する。

規定項目：

序文 1 適用範囲 2 引用範囲 3 用語及び定義 4 取付け位置の分類 5 動作モード 6 機能状態区分 7 試験及び要求事項 8 呼び 付属書 A(参考) 付属書 B(参考) 解説

期待効果：

ISO 記載内容を再検証し、表記内容の見直しを行うことで、より使いやすい JASO となる。

10：規格名称：JASO F 123 自動車部品－つば付きなベタッピンねじ

改正の目的：

この規格は、前回の小改正(2008年)から11年、改正(1991年)から28年が経過しているため、最新の形状・寸法、強度区分、ねじ精度などについての詳細調査を実施し、現状の使用実態に即した規格に改正した。

適用範囲：

この規格は、自動車に使用するつば付きなベタッピンねじについて規定する。

2019年度 JASO・JASO テクニカルペーパー (TP)・JIS の原案概要

規定項目： 1 適用範囲 2 引用規格 3 ねじ部の種類 4 機械的性質 5 形状・寸法 6 表面状態 7 材料及び熱処理 8 表面処理 9 検査 10 製品の呼び方 解説

期待効果： 最新の使用実態にあわせ、関連規格との整合を図った実用的な規格とすることにより、製品品質の安定化、部品共通化の促進、規格利用の価値の一層の向上が期待できる。

11：規格名称：JASO M 349 自動車—自動変速機油のシャッター防止性能試験方法

改正の目的： 本規格は、低速すべり試験機を用いて自動変速機油のシャッター防止性能を評価する方法を規定したものである。シャッター寿命の試験機差が大きいという課題があり、また、昨今の自動変速機油の性能向上により試験時間が長期化しているため試験時間短縮の要望がある。これを受け、試験機差によるばらつき低減と試験時間短縮を目的に試験条件の改正を行った。

適用範囲： 乗用車、トラック及びバスに用いられる自動変速機油のシャッター防止性能を評価する方法について規定する。

規定項目： 1 適用範囲 2 用語及び定義 3 試験方法 4 試験後のプレート観察及び摩擦係数の計算 5 報告 附属書 解説

期待効果： 業界標準として安定的なシャッター寿命を測定することが可能となる事で、燃費向上に大きな効果が期待されているロックアップクラッチにおけるシャッター特性を把握でき、変速機及びフルード開発力の向上、効率化、市場油品質の向上に貢献できる。

[JASO テクニカルペーパー制定：1件]

12：TP名称：JASO TP 20001 自動車のV2Hモードの妨害波に対する限度値と測定法に関するガイドライン

制定の目的： V2Hの放電モードをもつ車両から生じるおそれがある電磁妨害波の限度値と測定法のガイドラインを定める。

期待効果： V2Hシステムに必要な妨害波試験法とその限度値に関するガイドラインを示すことにより、測定項目の漏れがなく適切な水準での評価が可能になり、試験の効率と品質の向上が期待できる。

[JASO テクニカルペーパー改正：2件]

13：規格名称：JASO TP 14002 アイドリングストップシステム用スタータの繰り返し作動耐久試験方法に関するガイドライン

制定の目的： 当該 JASO TP を基に ISO 規格 (ISO 20574) が制定されたため ISO との差異を明示する。

期待効果： JASO TP は試験方法は簡便な記載だが国内市場を鑑みた試験条件も規定、ISO は主に国際レベルを考慮した詳細な試験方法・手順を規定するも試験条件の規定無し、と違いがあるため、両者の違いを認識し効果的に使うことが、開発負荷低減に役立つものと期待される。

14：規格名称：JASO TP 14003 アイドリングストップ装置用スタータリレーの作動耐久試験方法に関するガイドライン

制定の目的： 当該 JASO TP を基に ISO 規格 (ISO 22565) が制定されたため ISO との差異を明示する。

期待効果： JASO TP は国内市場を鑑みた試験条件を規定、ISO は主に国際レベルを考慮した試験方法・手順を規定するも試験条件の規定無し、と違いがあるため、両者の違いを認識し効果的に使うことが、開発負荷低減に役立つものと期待される。

[JIS 改正：5件]

15：規格名称：JIS D 3607-1：2014 ディーゼル機関—高圧燃料噴射管の鋼管—第1部：冷間仕上継目無単層鋼管の要求事項

改正の目的： この JIS は前回 2014 年に改正されたが、同時にその改正内容を ISO 規格に反映する提案が我が国から行われ、その結果、対応国際規格 ISO 8535-1 が 2015 年に改訂された。改訂された ISO 規格には、JIS での新しい規定がほぼ盛り込まれ、整合度は大幅に向上したが、同時に管内外径の組合せ見直しも新しく提案されてそれが採用された。この新しい組合せの内容は 2014 年版の JIS には規定されていなかったが、その後日本でも広く使われるようになったので、これを JIS に追加するための改正を行った。

適用範囲： ディーゼル機関用及び燃料噴射ポンプの試験用の高圧燃料噴射管に用いる、冷間仕上継目無単層鋼管の寸法及び要求事項について規定する。

規定項目： 序文、適用範囲、引用規格、”用語及び定義”、”寸法及び許容差”、”管の加工工程及びその他の要求事項”、試験、呼び方、”識別及び刻印”、こん(梱)包、解説

期待効果： 市場で新たに使われている管内外径組合せ等が規格化されることにより、特に国外との取引における開発上・製造上の情報混乱が防止できると共に、燃料噴射装置全体の品質向上に寄与できる。

16：規格名称：JIS D 3608：2009 ディーゼル機関—燃料噴射ポンプのカム軸端及びハブのテーパ部

改正の目的：

ディーゼル機関の低エミッション化，低燃費化のため，燃料噴射装置もコモンレールシステム等の新技術が投入されている。それに対応して，噴射装置に関する規格が次々に制定・改正されている。上記燃料噴射ポンプの駆動軸に関する形状規格についても，対応する国際規格 ISO 6519 が，コモンレールシステムの採用拡大に伴う対応のため，2015年7月に改正されて新しい形状が規格化された。追加された形状の中には，日本でも採用されているもの，及び一部形状に我が国独自の仕様を用いたものがあるので，JIS にそれらをまとめて追加する改正を行う。

適用範囲：

ディーゼル機関に使用する燃料噴射ポンプ及びコモンレール燃料噴射システムの高圧サプライポンプにおいて，ポンプのカム軸端及びハブのテーパ部の取付け互換性に必要な寸法について規定する。

規定項目：

序文，適用範囲，寸法及び許容差，附属書，解説

期待効果：

エンジンへの搭載要件から各社まちまちになる可能性の高いコモンレールシステムの高圧サプライポンプの駆動軸形状が統一でき，混乱を防止できると共に，合理的，効率的な開発および生産へ寄与できる。

17：規格名称：JIS K 2247-1：2009 ディーゼル機関—NOx還元剤 AUS 32— 第1部：品質要件

改正の目的：

SCRコンバータシステムの作動に必要なNOx還元剤（尿素水溶液）関連の国際規格として，ISO 22241シリーズがあるが，いずれも制定から5年以上が経過し，内容の見直しが行われ，ISO 22241-1は，2019年2月に改正された。対応する国内規格である JIS K 2247-1についても整合を図る。

適用範囲：

ディーゼル機関搭載車両に装着する，選択還元式触媒コンバータシステムの作動に必要なNOx還元剤AUS 32の品質要件について規定する。

規定項目：

序文，1. 適用範囲，2. 引用規格，3. 用語及び定義，4. 製品の呼び方，5. 品質要件及び試験方法，6. 取り扱い，輸送及び貯蔵，7. 表示，附属書，解説

期待効果：

第1部は，尿素水溶液の品質要件について規定した規格であり，今回の改正で以下が期待できる。

- 新たに用語の定義を追加され，規格の内容が理解しやすくなる。
- 尿素濃度の測定の測定方法を明確化し，品質の向上が図れる。
- 品質要件への適合性確認を，管理計画に基づいて実施することが追加となり，製品の品質向上が図れる。
- 流通過程での取り扱い，輸送および貯蔵に関する事項を追加し，製品品質の維持が図れる

18：規格名称：JIS K 2247-2:2009 ディーゼル機関—NOx還元剤AUS 32— 第2部：試験方法

改正の目的：

SCR コンバータシステムの作動に必要な NOx 還元剤（尿素水溶液）関連の国際規格として，ISO 22241 シリーズがあるが，いずれも制定から5年以上が経過し，一部内容の見直しが行われ，ISO 22241-2 は，2019年2月に改正された。対応する国内規格である JIS K 2247-2 についても整合を図る。

適用範囲：

ディーゼル機関搭載車両に装着する，選択還元式触媒コンバータシステムの作動に必要なNOx還元剤AUS 32の試験方法について規定する。

規定項目：

序文，1. 適用範囲，2. 引用規格，3. 仕様，4. 資料採取方法，5. 精度及び係争，附属書，解説

期待効果：

第2部は，尿素水溶液の試験法について規定した規格であり，今回の改正で以下が期待できる。

- アルカリ度の定量に使用する標準緩衝液が，日本で入手し難いものしか規定されていなかったため，日本で入手容易な標準緩衝液を追加することで，効率化が図れる。
- ICP-OES 法に微量のりん (P) を測定するための試験方法が追加され，多元素同時分析により，効率化が図られる。

19：規格名称：JIS K 2247-3:2011 ディーゼル機関—NOx還元剤AUS 32— 第3部：取扱い，輸送及び貯蔵

改正の目的：

SCR コンバータシステムの作動に必要な NOx 還元剤（尿素水溶液）関連の国際規格として，ISO 22241 シリーズがあるが，いずれも制定から5年以上が経過し，一部内容の見直しが行われ，ISO 22241-3 は，2017年6月に改正された。対応する国内規格である JIS K 2247-3 についても整合を図る。

適用範囲：

ディーゼル機関搭載車両に装着する，選択還元式触媒コンバータシステムの作動に必要なNOx還元剤AUS 32の取扱い，輸送及び貯蔵に関する要件及び推奨事項について規定する。

規定項目：

序文，1. 適用範囲，2. 引用規格，3. 用語及び定義，4. 一般要件及び推奨事項，5. 品質保証，6. 容器及び装置類の取扱い方法，附属書，解説

期待効果：

第3部は，尿素水溶液の取扱い，輸送及び貯蔵について規定した規格であり，今回の改正で以下が期待できる。

- コントロールプランの監査実施を要求事項に追加し，製品の品質維持・向上
- トレーサビリティの確保を推奨事項から要求事項に変更し，消費者保護や製造責任の明確化。